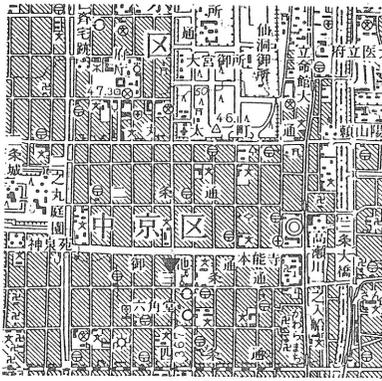


京都・平安京左京三条三坊十一町

- 1 所在地 京都市中京区烏丸通姉小路上ル
- 2 調査期間 一九八〇年(昭55)一月～一九八一年一月
- 3 発掘機関 平安博物館
- 4 調査担当者 寺島孝一
- 5 遺跡の種類 都城跡
- 6 遺跡の年代 平安時代～江戸時代
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要



(京都東北部)

左京三条三坊十一町の東端中央部にあたる。平安時代の後期には、この地の北側に後鳥羽上皇の院の御所である「押小路殿」、南には

後白河法皇の院の御所の「三条西殿」が営まれ、十一町のこの地にも、讃岐守、佐渡守を歴任した高階為清が邸宅を構えていた可能性がある。平安時代の遺構としては調査地東端で「烏丸小路」の東側の側溝と考えられる

南北の溝、方形の木組のある井戸などを検出している。

他には、中世から近世に至る数多くの井戸や土壙を検出しているが、二つの土壙から二〇数個体の備前焼の大甕が出土した点が注目される。鎌倉時代後半から南北朝にかけてのものと考えられ、いずれも意識的に細かく破壊されて土壙に投棄されていた。

墨書のある下駄が出土したのは、共伴した土師皿などから一六世紀末から一七世紀前半と思われる木杵をもった井戸である。土師皿の他に出土した遺物としては、美濃系天目茶碗、唐津系草文皿、羽釜などで、木製品としては他に箸などが出土している。

8 木簡の積文・内容

(1) 「一」

幅六・七cm、長さ約二〇cmの下駄の裏面に墨書されている。大きさをからみて、女性用かと考えられる。

9 関係文献

勸古代学協会『平安京跡研究調査報告第十二輯 押小路殿跡・平安京左京三条三坊十一町』(一九八四年)

(寺島孝一)